

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病害虫発生予察情報について

平成22年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

平成22年度農作物病害虫発生予報第9号

平成22年11月30日
徳 島 県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.0%、発病度が0.1)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分に換気を行なう。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生葉率が1.3%であり、ほぼ平年(47.9%、3.7%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が20.0%, 発病葉率が0.9)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は50.0%, 発病葉率は5.3%であり、平年(14.0%, 0.3%)と比べてやや多めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (2) 発生が多くなると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は16.7%, 寄生葉率は0.8%であり、平年(32.0%, 4.5%)と比べてやや少なめの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.0%, 寄生葉率が0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は66.7%でほぼ平年(48.0%)並であるが、寄生葉率は2.7%で平年(7.5%)と比べてやや少なめの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が33.1%、発病度が1.7%)。
- (2) 11月26日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並～低い、降水量は平年より少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。
- (2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実にこなう。
- (3) 被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が4.3%、10株当たり幼虫及び蛹数が0.01頭であり、平年(15.1%、0.2頭)と比べてやや少なめの発生である。
- (2) 11月26日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並～低い、降水量は平年より少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.3%、発病度が1.5%)。
- (2) 11月26日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並～低い、降水量は平年より少ないと予想されている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今春県内でべと病菌レース8による発病が確認されている(11月19日付け特殊報第1号)ので、レー

- ス8 抵抗性品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (4) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

露地野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並～やや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月の巡回調査では、アブラナ科野菜(キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー)での発生圃場率は78.3%、寄生株率は19.3%であり、平年(38.2%、6.2%)と比べてやや多めの発生となっている。ダイコン、ホウレンソウでも、発生圃場率が高めである(下表参照)。
- (2) 11月26日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並～低い、降水量は平年より少ないと予想されている。

【11月巡回調査の結果】

	アブラナ科野菜				ダイコン				ホウレンソウ			
	2010	2009	2008	平年	2010	2009	2008	平年	2010	2009	2008	平年
発生圃場率(%)	78.3	9.1	18.2	38.2	60.0	57.1	0.0	19.4	91.7	0.0	0.0	23.9
発生圃場程度	29.3	2.3	6.8	11.7	15.0	14.3	0.0	4.9	22.9	0.0	0.0	6.0
寄生程度指数	—	—	—	—	2.3	2.6	0.0	0.5	2.7	0.0	0.0	0.7
寄生株率(%)	19.3	0.7	4.7	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—

(注1) 平年 2000～2009年の平均値(但し、アブラナ科野菜については、2005年を除く)。

$$(注2) \text{発生圃場程度} = \frac{4 \times \text{甚} + 3 \times \text{多} + 2 \times \text{中} + 1 \times \text{少}}{4 \times \text{調査圃場数}} \times 100$$

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.1%、発病葉率が0.7%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に充分かかるように丁寧に散布する。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

(5) 展着剤は規定範囲内で多めに加用する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、寄生株率が3.4%であり、ほぼ平年(32.3%、5.0%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

(3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、寄生葉率が0.8%であり、平年(31.1%、4.1%)と比べてやや少なめの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

○ 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

テレホンサービス：0883(26)1199

URL：<http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。